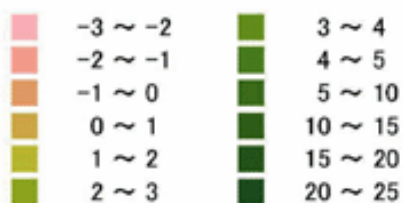


第2節 風水害

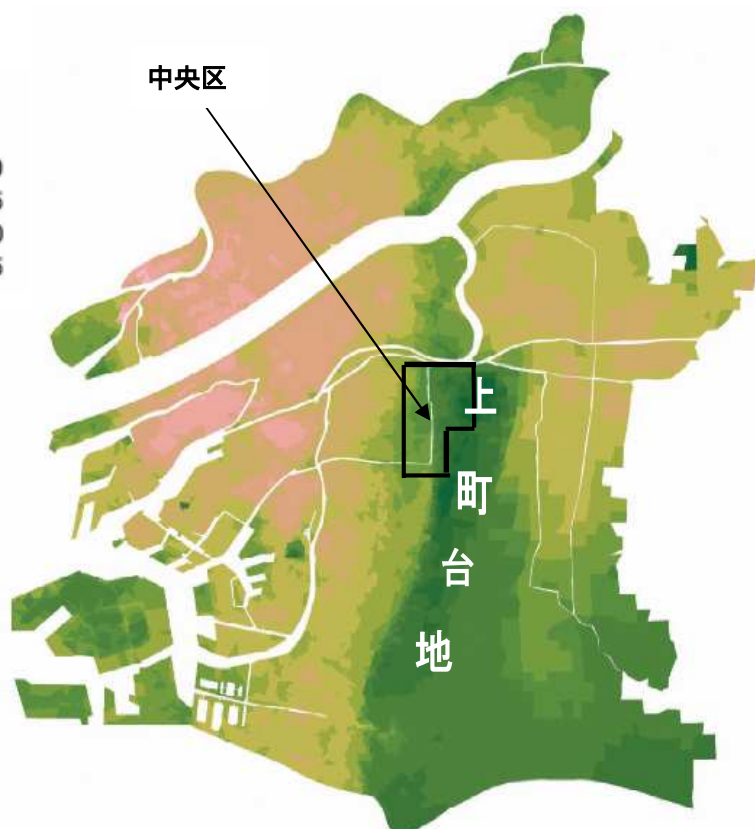
大阪市は多くの川に恵まれ、江戸時代には「浪華の八百八橋」と呼ばれるなど、水の都として発達してきました。弥生時代までさかのぼると、現在の市域の半分近くまで海が広がり、上町台地の東側の内陸部でも湖が広がっていました。このような成り立ちから、市街地の多くが低地で水害に弱い地形といえます。

(下の図は、大阪市域の各地点における海面からの地盤の高さを表しています)

海面からの地盤の高さ (m)



中央区は、東側が上町台地上の高い場所にあるんだけど、西側は低い場所にあるんだね。

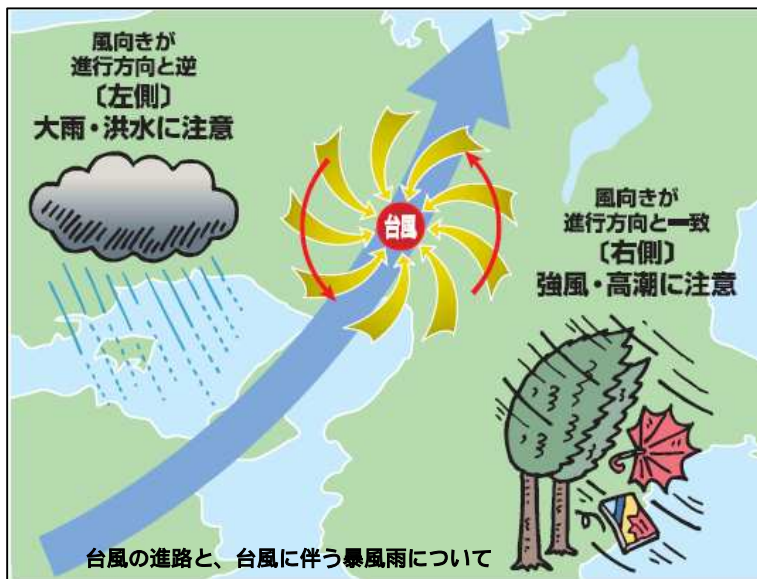


以下では、台風や集中豪雨と、中央区で想定されている水害（津波、河川氾濫、内水氾濫）のうち、河川氾濫と内水氾濫を見ていきます。

(津波については5ページからの第1節を参照してください)

1 台風・集中豪雨による災害

台風は、日本近辺に停滞する前線の活動を活発化させ、大雨を降らせませす。



大阪市では、過去最も大きい台風（伊勢湾台風）が来襲することを想定して、防潮堤などの整備を行い、昭和51年以降、高潮による被害は発生していないよ。



また、近年、限られた地域で短時間に降るゲリラ豪雨のため浸水被害が多発しています。この集中豪雨をもたらす積乱雲（入道雲）は短時間で急激に発達するため、台風などと異なり予測が非常に困難です。下の図は、風の強さと想定される被害と、雨の強さと想定される被害をまとめたものです。ご参考ください。

■風の強さと想定される被害

平均風速 (m/秒) 予報用語	想定される被害
10以上～15未満 やや強い風	傘がさせない
15以上～20未満 強い風	風に向かって歩くことができない
20以上～25未満 非常に強い風	車の運転を続けるのは危険な状態となる
25以上～30未満 非常に強い風	樹木が倒れ始める 瓦が飛び始める
30以上～ 猛烈な風	屋根が飛ばされるなど、木造住宅が壊れ始める



■雨の強さと想定される被害

1時間雨量 (mm) 予報用語	想定される被害
10以上～20未満 やや強い雨	長く続くとときは注意が必要
20以上～30未満 強い雨	側溝などから水があふれることがある
30以上～50未満 激しい雨	マンホールから水があふれることがある
50以上～80未満 非常に激しい雨	地下街に雨水が流れ込むことがある
80以上～ 猛烈な雨	大規模な災害が発生するおそれが高い



大阪市では、10年に1回の大雨（1時間60ミリの降雨量）を想定して、下水道を整備しているよ。

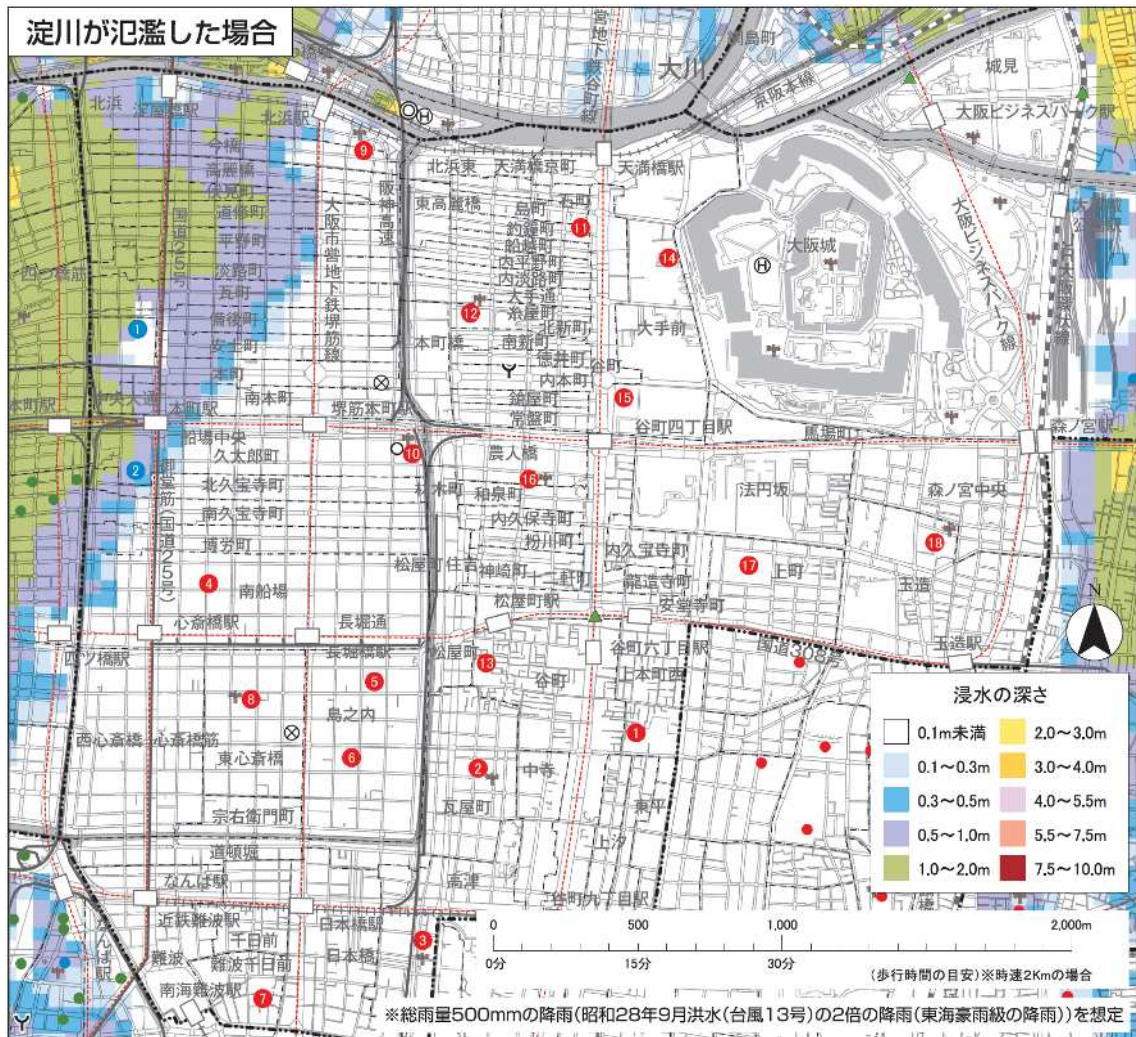


2 河川氾濫による災害

河川氾濫とは、河川水位が堤防より高くなった時や堤防が壊れた時に、河川の水が市街地などに流れ込む現象です。

中央区では、淀川、大和川が氾濫した場合に大きな災害となる可能性があります。以下の図は淀川、大和川が氾濫した場合の浸水被害を表したものです。

(1) 淀川が氾濫した場合の浸水被害



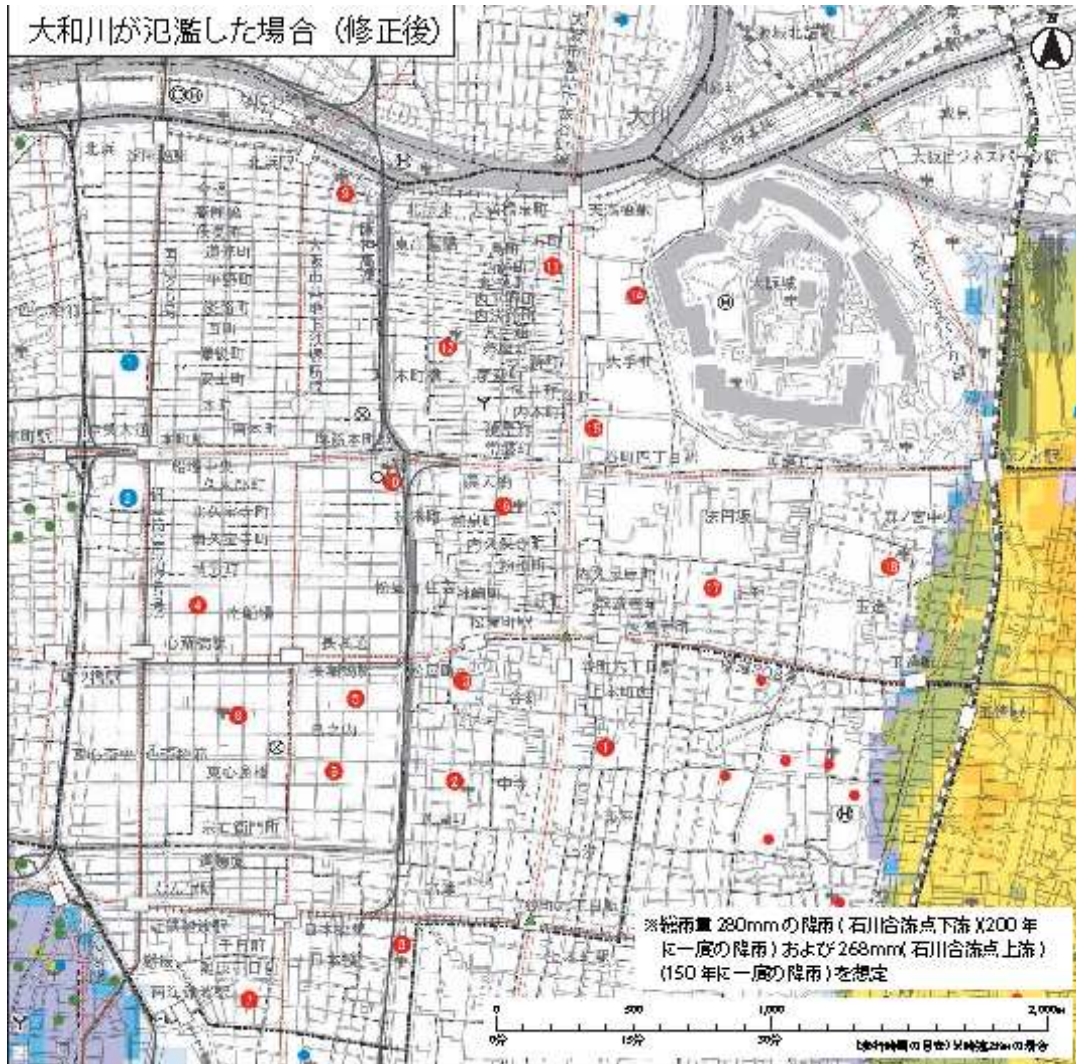
水害時ハザードマップ中央区版 27.2

- 凡例
- 災害時避難所
 - 水害時避難ビル
 - 災害時避難所・水害時避難ビル
 - 淀川が氾濫した場合に1時間で浸水するおそれがある区域
 - 淀川が氾濫した場合に1時間~6時間で浸水するおそれがある区域
 - Ⓜ 災害時用ヘリポート
 - 📢 防災スピーカー
 - ▲ アンダーパス

総雨量とは、雨の降り始めから降り終わりに降った雨の総量のことだよ。

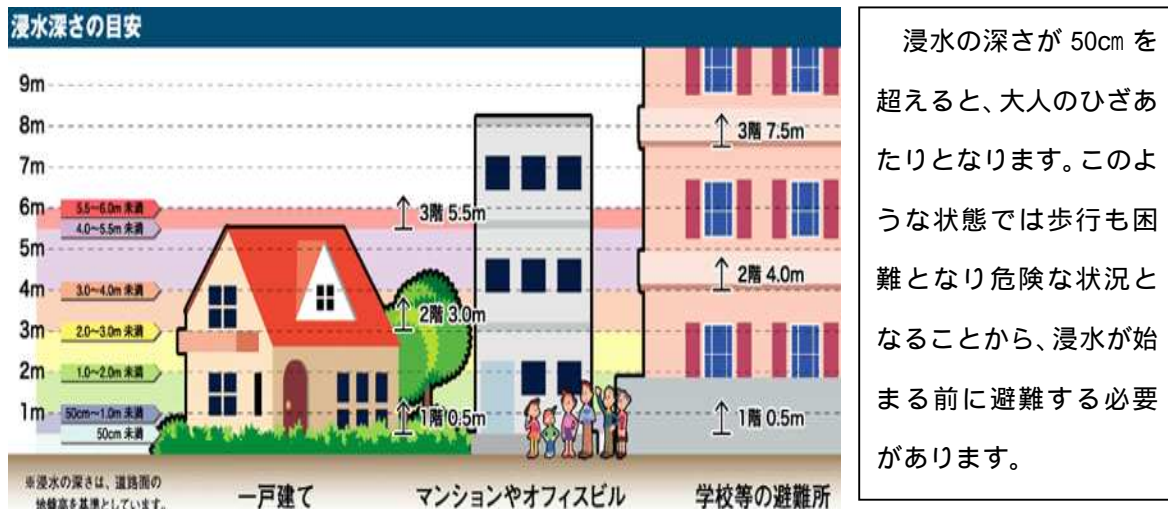


(2) 大和川が氾濫した場合の浸水被害



水害時ハザードマップ中央区版 27.2

(凡例は 18 ページを参照してください。)



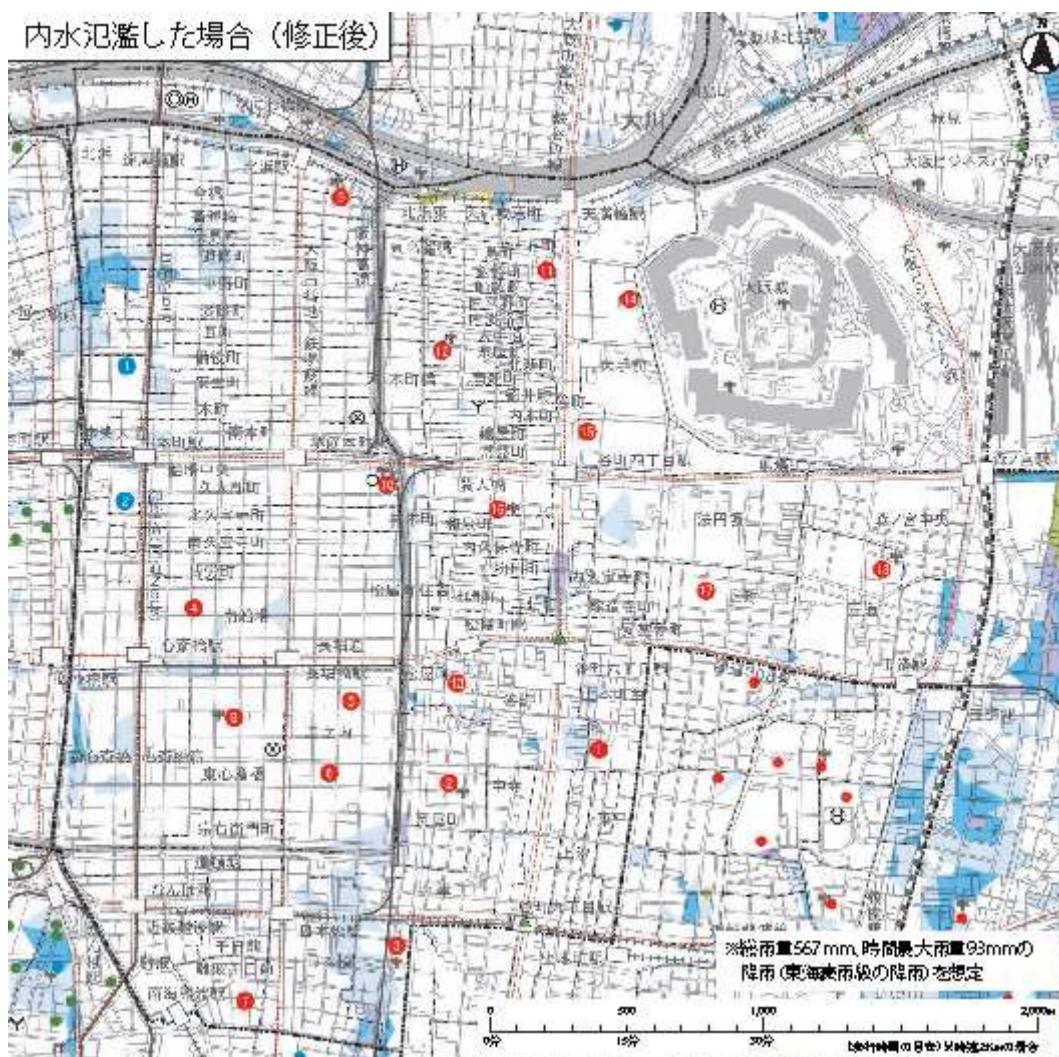
寝屋川や平野川などの他の河川氾濫の被害想定も水害ハザードマップで確認しましょう。

(3) 寝屋川流域における堤防破堤への備え

大阪府と大阪市を含む寝屋川流域では、大雨が降った場合など、河川水位が上昇して堤防が破堤し壊滅的な水害が起こる恐れが出た時には、人命や家屋への甚大な被害を防ぐための最終手段として、やむを得ず下水道ポンプの運転調整（河川への雨水放流を制限）を実施する場合があります。

3 内水氾濫による災害

内水氾濫とは、市街地に降った雨が下水道などから排水することができず、その場にたまった水の浸水などによって発生する氾濫のことです。下の図は、内水氾濫した場合の浸水被害の程度を表した図です。



水害時ハザードマップ中央区版 27.2

（凡例は18ページを参照してください。）

内水とは、ポンプによる排水がなければ、降雨を河川へ排水できない雨水のことだよ。

